

“三ツ星”若狭牛の開発（H25～27年度）

現状

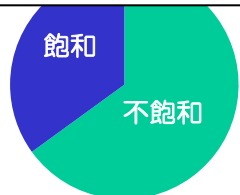
県産和牛の若狭牛ブランド化から25年が経過…
産地間競争の激化、飼料価格の高騰…

課題

安全、安心な県産飼料を活用した新たな特徴
ある若狭牛の生産技術を開発する

脂質の不飽和脂肪酸割合は**口溶け、柔らかさ、
風味**に影響する

お肉の脂質に含まれる
脂肪酸組成



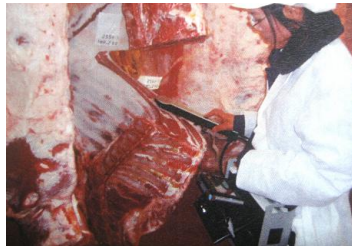
不飽和脂肪酸の約9割を
占める**オレイン酸**に着目

オレイン酸割合に、
飼養管理と元々の素質（遺伝子型）がどの程度影響を及ぼすのか明らかにされていない

県産飼料を活用し、**オレイン酸**を向上させるための肥育技術が必要

福井県の新たなブランド牛肉 “三ツ星”若狭牛の生産技術を検討

1. 若狭牛肉オレイン酸への影響要因の調査分析



H25.7.22～H26.8.25までに424頭を調査した

- 雌牛の方が去勢牛よりもオレイン酸割合が高い
- 脂肪交雑との相関は認められない
- 農家別にオレイン酸割合に傾向が認められ、飼料給与内容が及ぼす影響が大きい

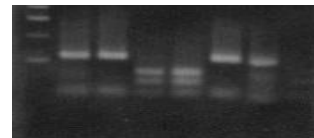
今年度中に500頭以上を調査し、種雄牛系統別の影響などについても調査する

2. 県産飼料活用によるオレイン酸等の食味向上飼養技術の開発



H26.5.19に肥育素牛10頭を導入した
県産飼料米やオレイン酸が多く含まれる飼料（米ぬか）を活用した肥育試験を実施している
H27年度 枝肉成績検討、肉質分析、食味試験

3. 美味しさに関連する遺伝子調査と優良雌牛の選定技術の確立



H25年度 県内肥育牛を対象にオレイン酸割合向上に関わるSCD遺伝子型を調査したところ、優良遺伝子型の出現頻度は55.7%（34/61頭）であった
H26年度 H26.8.29までに77頭の繁殖雌牛のSCD遺伝子型を調査したところ、優良遺伝子型の出現頻度は59.7%（46/77頭）であった
今年度中に200頭の繁殖雌牛を調査する
H27年度 県内産肥育牛の遺伝子型から、種雄牛系統別の優良遺伝子型出現頻度を調査する

期待される成果等（成果目標）

- 県産飼料を活用した安全安心な食材として若狭牛牛肉の信頼度アップ
現状：県産飼料率 10% → 目標：55%
- “三ツ星”若狭牛牛肉の枝肉単価の向上
5等級枝肉単価 目標：2,500円/kg
- 優良子牛等の供給による若狭牛全体の美味しさ向上